

## 5 搾乳中の注意点

### (1) ライナースリップ

ライナーをしっかり乳頭に装着しないと、ライナーと乳頭の間から空気が入ります。空気が入るとライナーがスリップします。スリップすると他の乳頭に生乳が逆流するドロップレットという現象が起きます。

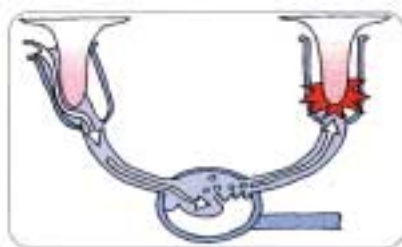


図5 ライナースリップとドロップレット



写真14 傷んだ乳頭口

#### <ドロップレットが起きると>

- ・乳房内に菌を進入させ、乳房炎を発症させやすくなる。
- ・乳頭口を傷め、菌が乳房内に入りやすくなり乳房炎に感染しやすくなる。

### (2) ユニットの持ち運び方

ミルクローを逆さまにすると生乳がライナーに逆流します。逆流するとライナーが濡れ乳頭にしっかりと装着できなくなり、ライナーズリップの原因になります。

ユニットの移動は、写真15のようにミルクローを逆さまにせずに行います。



写真15 ユニットの持ち運び方

### (3) PLテスター（乳房炎検査）

前搾りでいつもと違う乳汁（固形物など）が出た時や、乳房にしこりなどを感じる時は、乳房炎の疑いがあります。

その場合は直ぐにPLテスターで簡易に検査をおこないます。検査方法は、皿の穴にそれぞれの分房の規定量の乳汁に、規定量のテスター液をかけ混ぜあわせませす。



写真16 皿とPLテスター

#### <検査結果>

- ・液体が黄色、固まらない場合→乳房炎の可能性は低い。
- ・液体が緑色、固まった場合→乳房炎の可能性が高い。  
その時はより詳しい検査（獣医師による）が必要です。



写真17 検査実施後  
(右下が乳房炎)

### (4) 分娩牛・治療牛の搾乳

分娩したばかりの乳牛、または治療で抗生物質を使用した乳牛は、抗生物質の残留が陰性になり、休薬期間が終了するまで出荷できません。

出荷できるまでバケットミルクカーで搾ります。



写真18 バケット  
ミルクカー

